

編
集
後
記

○「大分県地方史」の刊行がとかくおくれがちで、申し訳ないと思えます。なんとか執筆者がかたよることを避けようと、編集の苦勞をつづけているのはあるが、どうしても年四回の発行と、一冊百頁以上とのかねあいから、今回も私たちのものを加えざるを得なかつた。

疋田泉「佐伯神楽について」の勞作も、今回をもつて完結した。

これが斯界にもたらず貢獻はおそらく予想外に大きなものがあるかと信じている。疋田氏の永年かかつてまとめられた御努力を感謝するとともに、一諸に喜びたい。「ありがとうございました。」

かわつて大隅米陽「佐田氏研究」の連作に登場してもらつた。その序論であるが、大隈氏の永年にわたる佐田氏の研究によつて、豊前方面の武士団の活躍が明らかにされることを期待したい。

近世では、岡藩史に精力的にとりくまれてゐる北村清士氏が、お元氣なところをみせて下さつた。とかく開拓のおかれてゐる近世諸藩の研究史であり、「地方史」が学会としてもつ意味が存することをおあらためて記すまでもない。ひきつづいての御発表をお願いしておく。

○本会も今年で満一〇才になる。そろそろ十周年「記念号」を企画する話しが出はじめてゐる。機関誌も最初の年三回から四回になり、いまや三二号に達した。ふり返つてみればながいような短かいような十年であるが、その間やはり「大分県地方史ならでは」と自賛で

きるような論考が数多く寄せられて、大分県の歴史を明らかにするところが多かつた。十周年を記念する意味からも、会員の一人でも多くが、たとえ短かいものでも結構、どしどし原稿を送つていただきたい。編輯部としては、いま大いにハッスルしてゐるところであり、論考のみでなくて、十周年記念の行事などにもチエをかしていただきたいと思う。

ひきつづいて次号の印刷にかかつてゐる。本年度の総会も間近にせまつた感じで、その折りの研究発表についても、そろそろ申し込みいただきたい。
(富来記)

昭和三十九年一月二十五日 印刷
昭和三十九年一月三十日 発行

会費 年五〇〇円

編集兼 代表者 渡 辺 澄 夫
発行人

印刷人 高 井 久 雄

大分市上野

印刷所 三恵印刷株式会社

電話③三七七五・五六六五番

大分市駄ノ原 大分大学

学芸学部国史研究室内

発行所 大分県地方史研究会

(振替下関五二九四番)